農作物技術情報　第７号の要約

令和２年　９月２４日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	**技術対策** 籾の黄化状況により刈取適期を判定し、刈取り作業を進める。 倒伏した圃場では、作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努める。 日没が早まる時期なので、作業は計画的に進め、安全な農作業を心掛ける。
畑作物	**生育状況**：大豆の登熟は順調で、子実の肥大も良好である。葉色が濃い圃場が多く、蛾の幼虫による葉の食害が目立つ。倒伏や大型雑草が見られる圃場が散見される。 **技術対策** **大豆**：雑草や青立ち株の抜き取り、コンバインの整備等、収穫作業に向けた準備を整える。 **小麦**：越冬前に十分な生育量が確保できるよう、適期播種を行う。圃場条件が整わない場合は、適期を逃しても無理な播種作業を行わず、播種量を増やして対応する。
野菜	**生育状況**：露地きゅうりは成り疲れや気温低下の影響と病害の発生により、収穫終了となる圃場が増えている。トマトは摘芯が終了し順調な生育だが、裂果が発生し始めている。ピーマンも概ね順調だが、高温による日焼け果の発生など、障害果が見られる。雨よけほうれんそうは高温による生育停滞が見られた。ねぎは順調に出荷されているが、病害虫の発生が多い。キャベツは７月に定植できない時期があり一時数量が減ったが回復傾向。レタスは概ね順調に生育している。 **技術対策** **台風対策**：排水対策や施設の保守点検など、対策を徹底する。 **露地きゅうり**：病葉や古葉などの摘葉を中心とした草勢維持のための管理とする。栽培終了後は次年度へ向けた準備として資材消毒を行うほか、キュウリホモプシス根腐病の残さ診断を積極的に行う。 **施設果菜類**：気象条件に応じたハウスの適切な温湿度管理に努めるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防を徹底する。 **雨よけほうれんそう**：年内収穫用にもう１作播種し、温度管理に加え、病害虫防除を徹底する。寒締め栽培では、品種の特性に合わせ適期に播種し、温度管理と病害虫防除を徹底する。 **露地葉菜類**：ねぎは計画的な土寄せと適期防除を行う。キャベツ、レタスは適期収穫に努め、使い終わったマルチや病害で収穫しなかった株は適切に処理する。促成アスパラガスは5℃以下の低温遭遇時間を参考にしながら適期に掘り上げを行う。
花き	**生育状況**：りんどうの彼岸需要期用品種は平年並～やや早い開花。同じく小ぎくはやや早い開花。病害虫については、りんどうで葉枯病、小ぎくでハダニ類が全域で増加傾向。 **技術対策** **りんどう**：今後も花腐菌核病やアブラムシ類等の病害虫防除を徹底する。 **小ぎく**：収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保する。
果樹	**生育状況**：りんごの果実生育（横径）は、県平均で平年・前年並みと概ね順調。中生種の「ジョナゴールド」の熟度の進みは平年並み。 **技術対策** **りんご**：中生品種の収穫時期となるので、硬度を重視した適期収穫とすぐりもぎを徹底する。10 月は台風シーズンなので、気象情報に注意し、事前対策の徹底を図る。
畜産	**生育状況**：３番牧草の生育は平年並。飼料用とうもろこしの収穫が最盛期であり、収量は不良～平年並と予想される。 **技術対策** **飼料用とうもろこし**：収穫が始まっている。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進める。 **牧草**：刈り取り危険帯の時期が近づいている。この時期は収穫や施肥を避ける。 **獣害対策用電気牧柵**：次年度設置を考えて撤収方法を工夫する。 **家畜（牛）**：秋に増える牛の疾病に注意する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」でご覧ください。https://i-agri.net（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

〇農薬適正使用:使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

〇9月15日～11月15日秋の農作業安全月間「慣れるほど 忘れてしまうその危険　心につけて若葉マーク」

次号は令和2年10月29日（木）発行の予定です